

キャベツの環境こだわり農業に向けた取組

東近江農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

JAグリーン近江大中の湖加工部会は、加工業務用キャベツを中心に16戸で約20haを生産し、11～5月まで契約出荷をされています。契約出荷が主体ですが、一部の契約先では環境こだわり農産物に対するニーズもあり、新たな販路開拓を始められています。昨年度は、減化学農薬栽培の実証を行い、一定の成果が確認されたため、役員5名が平成23年度より害虫の発生が少ない年明けどりの一部で環境こだわり農業に取り組むことが決まりました。今年度は、生育期間が長い年明穫りでは、減化学肥料栽培への不安の声が上がったため、実証ほを設置するとともに、効果的な防除の実践についても支援を行うこととしました。

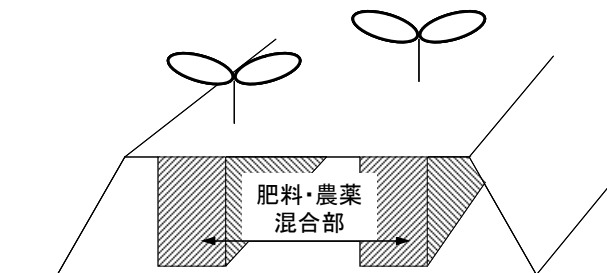
【普及活動の成果】

役員会で環境こだわり農業の取り組みに向けた説明を行い、申請にあたっては環境こだわり技術の検討会を開催することで、減化学農薬・減化学肥料技術についての理解を進めてきました。検討会では減化学肥料技術として、油かすなどの有機質肥料の利用することとなり、実証ほの設置を行うこととしました。

また、畝内施肥専用機の実演会を開催しました。専用機は畝立て時に、サンソーを用いて畝内に集中して肥料を投下し、板爪により畝内中央部に集中的に肥料を混合することが可能であり、施肥効率を高めることが期待されます。実演会では施肥量を変えた減肥区を設置することで、同機の施肥削減効果について確認することとしました。当日は、部会員への呼びかけを行い、同機の実演を見学し、当課より環境こだわり農業への取り組みや、定植後の病害虫対策についても説明を行いました。

9月に病害虫防除所からオオタバコガの予察注意報が発令されるなど、ヤガ類の発生が多く見られたため、ほ場巡回の結果や、農業技術振興センターの予察情報などを情報紙として部会員に配布しました。情報紙には環境こだわり農業に関連する実証ほの取組も紹介し、部会員への啓発を行ってきました。

これらの結果、環境こだわり栽培技術を導入したほ場の収量は目標であった5t/10aに達し、取組農家数も目標には届きませんでしたが増やすことができました。



畝内施肥のイメージ図



畝内施肥専用機の実演会